

# 会 議 録

会 議 名	令和元年度第 3 回 辰野町図書館協議会
開 催 日 時	令和 2 年 2 月 21 日 (金) 午前 10 時 15 分～11 時 55 分
場 所	辰野町立辰野図書館 2 階会議室
出 席 者	委員 6 名中 5 名 (事務局：宮澤教育長、西原課長、辰野図書館職員：千田・吉澤)
会 議 次 第	<p>進行 課長</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会のことば</li> <li>2. 教育長あいさつ</li> <li>3. 協議事項 (進行 会長) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小野図書館について</li> <li>2) 令和元年度図書館利用状況について</li> <li>3) 令和 2 年度図書館予算について</li> <li>4) 令和 2 年度図書館事業運営について</li> <li>5) その他</li> </ol> </li> <li>4. 閉会のことば</li> </ol>
会 議 結 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 協議事項 (進行 会長) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小野図書館について 辰野図書館長から説明し、質疑を経てご了承いただく。</li> <li>2) 令和元年度図書館利用状況について 辰野図書館職員から説明し、ご了承いただく。</li> <li>3) 令和 2 年度図書館予算について 辰野図書館職員から説明し、ご了承いただく。</li> <li>4) 令和 2 年度図書館事業運営について 辰野図書館職員から説明し、ご了承いただく。</li> <li>5) その他 なし</li> </ol> </li> </ol>
発 言 者	発言の内容
会 長	教育長からも話があったように (コロナウイルスで) いやな状況で、地方へも波及しないかというようなところ。皆さんくれぐれもご自愛を。
課 長	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小野図書館について (前回協議会以降経過及び小野図書館沿革を資料により説明) 予算二次査定において、蔵書整理及び建物利活用について地元住民と検討する予算を理解いただき 3 月議会にかけの運びとなった。小野区へも相談しに伺ったがすでに区会で承認され全戸に周知されているということで改めての説明会は不要と承った。今後は、沿革を小野図書館に掲示するとともに、来館者に思いを書いていただくボードを用意するなど閉館へのイベントをしていきたい。いろいろ経過があり協議会に諮らなければいけなかったが、後先となったがこのような形で準備が整ったのでご理解いただき、新たな図書機能を小野地区に配備できるとなった際はご協力をお願いしたい。</li> </ol>
会 長	本来全ての協議事項後に一括で意見をというところだが、大きな案件なのでここでいったん区切り、ご意見ご質問をお受けしたい。
教 育 長	小野区民の思いはどうか。

A 委員	流れはだんだんと見えてきた。区会で話は聞いたが、決まったことだと聞いたとなると意見できるものではない。閉館までのプロセスも分かった。個人的にも思い出深いし、機能を残すとなれば、次に結びつけるのなら、思いのある人の火種を消さないような橋渡しをしたい。住民の目線でタイアップできればと思うので、いろいろな情報を教えていただきたい。
会長	私の気持ちは前回のとおりに。一つは、今後は、図書館協議会があるので様々な問題は事後ということのないよう、お諮りいただきたい。二つとして、A 委員も言うように、私も同じことを考えていたが、今後小野の図書館を、子どものころから利用して思い出深い住民の方もいる、その思いが新しい形で次につながるような、準備されていると思うが、思い出に残る形で閉じていただけるように。そこにまた協議会としてお手伝いができれば是非お手伝いをしたいと思う。これは要望だが、くれぐれも閉館により小野の住民の皆さんにデメリットのないように。 今後蔵書整理等あるわけだが、必要なことがあればぜひ図書館協議会へお諮りいただきたい。
A 委員	新聞があるが、よく新聞の検索をするサービスがある。私は各地の情報を得るのに新聞の切り抜きをするが、ひとつの新聞しか取っていない。他の新聞との比較など情報として知りたい。そういったときに検索できるとか他の新聞のデータ集めができる方法が図書館の中にあってほしい。そういったものを考えていただければ。
会長	それは予算資料の上に書かれている減額された有料データベースのことか。どのくらいかかるのか。
図書館職員 (吉澤)	たとえば信毎 DB は一年間で 4 5 万くらい。若い世代が新聞を取らないので新聞社も紙の新聞の代わりとしてスマホやタブレットやネットで見られる新聞のデータの提供ということで DB の普及を進めている。この辺で言うと長野日報とたつの新聞以外は辰野図書館でとっている新聞の DB は販売されている。それは 1 回買えばいいというものでなく、ランニングコストが一紙につき例えば信毎だと 45 万くらい。これについては以前からずっと要求している。理事者のほうもそういう時代が来ていることは分かっているが今年も落とされた。住民や議員からの声が上がって届けば道は通るかも。役場職員からしても職務に関係ある記事を 3 年もさかのぼってみたりしているが、DB になればキーワードさえ入れれば過去の記事が出るというように話をするが、なかなか利便性が伝わらない。体験コーナーも二年ほど続けて図書館まつりの際に行ったりもしている。
教育長	理事者達は、そういう時代である、必要であるという方にちょっと様子が変わってきている。関心を持っている。
会長	確かに、図書館利用者だけでなく議会でも、議員も必要だろうし町職員もいろんなところで活用できる、なくてはならないものである。
A 委員	今の若い人たちは一時の情報でおしまいになっている。ではその情報が、どういう歴史があるのかという掘り下げた話にはならない。教育の現場などでもそういう掘り下げた話や歴史は必要だと思う。そういった多方面での必要性を取りまとめて、図書館だけがほしいとか予算化したいというのではなく、議員も学校の現場でも必要。全国でも今では子どもたちの情報の学習は進んでいる。そういった意味では、なんでもパソコン持てばいいとは思わないが、情報を集める手段としては必要である。ましてや図書館はもっとも必要と思う。
会長	ぜひ早い時期に導入できるように。
教育長	町の図書館で導入したら例えば中学校図書館での利用は可能か。

図書館職員 (吉澤)	少し前までは一紙につきいくつかのパスワードをもらえたが今は普及し始めたので原則ひとつのパスワードでしか使えない。それは営業との話し合いにもよるが、本来図書館にひとつ入れたらそのうち1校分安い金額で契約という可能性もないわけではないと思うが。共有できれば一番いい。新聞社としても特に信毎は新聞教育をしきりに言っているのです、そのように使えれば。
A 委員	個人的なレベルで使われたら商売上がったりになってしまうから。それこそ公共だというほうがかえって強みになる。
図書館職員 (吉澤)	先ほどAさんが言われたように、最近の若い人の情報の浅さというのも気になる。ネットなどの見出しだけで知ったような気になってしまうという傾向があると感じる。本当に正しくて信頼できる情報は自分たちがお金を出さないと得られないということをみんなで認識していけないと風潮としてこわいと感じる。
会 長	マーク TOOLi とは何か。
図書館職員 (吉澤)	図書館流通センターの持っているデータ商標で、機械で読める書誌情報。本の持っている情報を機械で読めるというもの。例えば、辰野図書館で買った本を図書館で資料としてシステムに登録するためには、タイトル、著者、出版社、出版年月あるいは内容まで登録しなければならないが、この契約で買えば機械の操作だけでその書誌データが辰野図書館のシステムに取り込むことができるというもの。一年契約で、図書館で新刊を入れれば入れただけ書誌情報を使える。契約しておくとならば新刊でなくて以前図書館で買って持っているふるい資料であっても、辰野図書館の書誌情報が不十分なものをマークからのデータの取り込みで補強したり十分なものにしたりという使い方もできる。
会 長	講座の講師の謝金が前年よりも増額されているのは。
図書館職員 (千田)	今年度まで開催されていた講師謝礼には図書館利用団体からの助成があり、それで開催していたが来年度からその団体の助成が見込めなくなったということでその分を増額させていただいた。
図書館職員 (吉澤)	具体的に言うと大平悦子さんの関係の、伊那昔ばなし大学です。
会 長	4) 令和2年度図書館事業運営について 新規講座のところに辰野語りの会(仮称)とあるがこれはどんな人たちか。
図書館職員 (吉澤)	昔ばなしを勉強している方たちがいて、大平さんの語りにもお呼びしたりしている。子どもたちに、読み聞かせではなくストーリーテリングという素語りができる人たちを育てていこうという計画はしたがなかなかメンバーの都合もつかず発足していなげればやりたい。 補足で読書支援ボランティアに基礎講座8回とあるが16回に。平日金曜だったがお勤めの方もるので試行的に土曜クラスも設けた。保育士さんなども関心ある方は受講していただいて保育園のほうに還元していただくのもいいのか。
B 委員	アウトリーチという、ボランティアによる団体貸出とあるが前からあったと思うが。
図書館職員 (吉澤)	前からなかった。今年度はじめたが頓挫している。喜ばれたということではあるが、対象になる方達が認知症を抱えたりということもあり、資料の管理がなかなか思うようにいかず、4回ほど行われたがここ数ヶ月はしていない。ボランティアによる貸出となるとやはり誰が何の本を借りたかということが担当するボランティアに分かってしまうという側面もあり、相手の抱える問題とかボランティアの身分・立場もあり今中断している。ただ、小野図書館も休館となるなどなかなか図書館にこられない人たちへのアウトリーチというのはやはりきちんと考えてやっていかな

	ければならないことと感じているが、人員的に厳しい。
B 委員	移動図書館の延長として増やしていくというのは。
図書館職員 (吉澤)	要望があれば。移動図書館が一番よい、職員が行くので。一番分かっているし守秘義務という点でも職員が行くのが一番よい。これから子どもの数も減っていく中でやはりお年より向けのサービスができればよいと思う。
B 委員	もう亡くなった義理の親が、字の大きい、時代小説や推理小説など、本を読むのが好きで、他町だが宅老所で移動図書館に出会いお世話になった。月1回きてとてもありがたかった。
図書館職員 (吉澤)	上伊那の公共図書館の中でも、高齢者の本の宅配などは話題にはなる。だが宅配だと郵送料がかかる。アウトリーチでまわるとすると移動図書館車を持ってないとか職員が足りないという問題になる。箕輪と駒ヶ根あたりがやっているか。
会 長	今の移動図書館車の稼働は。小野区への移動図書館を検討してみてもは。稼働を増やすと予算のこともあるか。
図書館職員 (吉澤)	移動図書館車が今保育園向きになっているのでほとんど絵本と子育て関係。新町グループという高齢の方たちの読書グループに行くときは本を別立てでコンテナに積んで持っていく。移動図書館車を使わないで、集まる方向けの本をチョイスして公用車で行くという、小さな規模であれば可能。希望があれば小野の区会でも何でも言っていて、小野図書館閉館になるけれどももし、希望があれば月に一回そういう形でまわると言っていていただいてもいいかも。
A 委員	図書館はいろいろな事業をしているが宣伝不足。子ども読書週間とか図書館まつりとか、断片的には知らせが来ると分かるけれど、これだけのいろんな事業をやっていることをどれだけの人たちが知っているのかという視点でみると宣伝不足。一年の中で図書館はこのようなことをやっているとまず関心を持ってもらい、それから次の段階へ。もったいない。もっと関心をもたれるよう宣伝をすべき。
B 委員	新刊の案内を新聞でぜんぜん見ない気がする。
図書館職員 (吉澤)	新聞には載らない。図書館の窓口においてある図書館だよりにあるくらい。WebOpac という蔵書検索には新着資料というところがありそれをクリックすると分類ごとに新しい資料が出てくる。箕輪は載ってるが辰野は載らない。
B 委員	長いこと図書館協議会委員をさせてもらっているが役になっていなくて、他の委員さんのように社会で活躍しているわけでもなく世間しらずの私がいいたい何の役に立つのかと主人と話をしていたら、主人が「辰野図書館は質が高いと思う。」と。TSUTAYA 化してないと。最初は志高くやろうとしてもどんどんと縮小して、コーナーがいっぱいあったのが、どこも売れてる本ばかりになっていってしまう。そのなかですごくがんばっていると思うと言った。それがすごく分かって。新刊書のコーナー見ても実用書しかなかった時代を知っている。そういうがんばっている図書館を自分なりに応援したら。宣伝でも何でもいいけれどやれることはあるんじゃないか、と珍しくいいことを言われて。ああ、そうだよねと、高い質を保っているんだから、本を選ぶこともそうだし、ただいい本を選ぶだけでなく皆の読んでもくれる汎用性のあるものを一生懸命選ぶとか、やれることはあるんじゃないかと言われて、できれば代りたいけど、評価している人はしているというか、通えば通うほどよさが分かるすばらしい図書館だと思う。その辺はアピールできるところ。
図書館職員 (吉澤)	今 B さんから出されたお話は日本の出版界全体を覆っている問題。最近新聞に出たが永江朗さんという方がいて、多くの本屋をまわったり何冊も本を書かれている方だが、「私は本屋が好きでした」という本を出版された。その中で、もともとの問

	<p>題意識としては、なぜ書店の平積みのところへヘイト本ばかり並ぶのかというところから問題を紐解いていくが、結局結論としては解決方法は今のところない。志の高い書店は残る。売ればいいという書店ばかりどんどん増えていってそういう中で地方の、田舎の本屋さんや図書館はどんどんつぶれていくという状況があると。根本的な解決方法はないと書かれていたけれども、図書館にしても似たような評価のされ方があって、先ほどの利用状況報告で、いずれの数字も減ってしまっているが、例えば貸出数を増やす方法はいくらでもある。コミックをたくさん入れるとか実用本をたくさん入れるとか、流行本を副本でたくさん入れるとかすれば貸出数は間違いなく増える。でも図書館の地域における役割というのはそれだけではないと図書館職員は皆思っているし、そういう出版状況の中で気を抜くと、新刊の棚がヘイト本とミステリーとホラーばかりになってしまう。今の出版状況からいくと。それを何とか食い止めるために全員で全点案内を見て辰野図書館にはこういう本を置いたほうがいい、必要だと。いくら読まれる本でもこれはちょっと保留にしておこうかということ全員で考えながら選書している。なので選書のことをそのように評価していただけるのは、図書館に勤めている人間にとってありがたいこと。一方で貸出数が全てという考えもあるので、その辺はなかなか難しいところ。</p>
A 委 員	<p>情報を集めるのは図書館はうまいが発信するのは得意ではないか。今そういう勉強会とかある。いかに情報発信するかというような、プレゼンじゃないが。子どもたちは好きな物語には飛びつくからそこをコーディネートするようなことができてくれば。</p>
図書館職員 (吉澤)	<p>図書館イコール読書ということではないので、情報を集めて情報を発信したい。特に郷土の関係のものをきちんと持っているというところを。</p>
会 長	<p>協議のほうは以上で終了としたい。熱心なご協議ありがとうございました。</p>